

カーボンフットプリント制度試行事業
カーボンフットプリント・ルール検討委員会
第7回会合 議事要旨

日時： 平成23年2月21日（月）14：00～16：00

場所： ベルサール神田 Room2+3

●出席者

稲葉委員長、平尾副委員長、玄地委員、齋藤委員、須田委員、辰巳委員、西尾委員
(出席7名)

●議題

1. 各種WG等の報告及び審議について

- －①「表示の多様化検討WG」について（活動報告及び審議）
- －②「カーボンフットプリントの新たな表示の在り方に関する研究会」について（報告案件）

2. ルール見直し検討について

- －①中間財PCR等の引用方法について

●議事概要

- ・ 議題1.～議題2.につき、事務局より説明が行われた。
- ・ 議題1－①について、検討・審議が行われた。
- ・ 議題1－②について、報告内容の確認および質疑応答が行われた。
- ・ 議題2－①について、検討内容の確認および質疑応答が行われた。

(1) 議題1－①「表示の多様化検討WG」について

- ・ WGで検討した内容を基に、来年度の試行事業において「絶対値」「削減率」及び「数値なし」の3種類のマークによる表示の多様化に関する実証実験を実施する。
- ・ 実施方法の詳細については、以下の指摘事項に対する考え方を整理した上で実行すること。
 - 同種の製品群について、3種のマークを同時かつ自由に市場流通させるのか。それとも予め製品数を絞り込むのか。
 - 運用ルールとPCRとの関係性。例えば、PCRの中には、3種類のマークのうちどれか1つしか使えないように定めるのか。
 - 「数値なし」マークのお皿の空白部分には、文字を入れたり、色付けするのか。
 - 販売単位のCO₂排出量の絶対値をWebサイトで開示することが多様な表示の前提。検証番号が任意とされている。Webサイトにおいて製品の情報を迅速に探せるような工夫が肝要ではないか。

<削減率の算定方法について（比較表示ルール検討WGの成果より）>

- ・ 削減率の算定方法については、資料5「CFPの削減率の算定方法について（案）」に沿って運用ルールを策定する。
- ・ 資料5「2.（5）部分削減表示」で「削減のポイント」とあるのは、削減率など「数値（点数）」のことでなく、削減を実現した「理由・要因」を意味していることを確認した。

（2）議題1-②「カーボンフットプリントの新たな表示の在り方に関する研究会」について
来年度、CFP制度試行事業とは別の枠組みで実証実験を始めたい、との研究会報告を踏まえ、自由に意見交換を行った。

【全般】

- ・ CFPの算定後、それをオフセットして社会的にCO₂を削減しようとの試みには賛成。
- ・ オフセットとの連携は、CFPを事業者が使うという意味では有効であると思われるため、取り組みやすい方法で進めて欲しい。
- ・ CFP制度試行事業とは別枠で進めるとのことだが、CFPとして蓄積されてきたものが、どのように使われるのか、ということには関心がある。CFP制度試行事業との位置付けを明確にするとともに、別枠ではあるが情報は提供して欲しい。
- ・ クレジットとの連携は良いが、きちんと信頼できるクレジットを対象とすべき。その点、国内クレジットは良いのではないか。

【表示の在り方】

- ・ CFPマークとして認知されているデザインをオフセットに引用することは好ましくないのではないか。
- ・ 表示の多様化により3種類のマークで実証実験を始めようとするところへ、更に新たなマークの種類を増やすのは混乱を増すのではないか。

【表示のパターン】

- ・ パターン2は、読みづらいとの指摘はあるかもしれないが、CFPとオフセットの両方が明記されるなど一定の配慮がなされている。事業者が勝手にゼロというものとは一線を画している仕組みであり、認めてよいのではないか。
- ・ 表示の多様化として、「数値なし」や「削減率」を導入するにあたっては、事業者がCFPの絶対値を表示したくない、とのニーズがあるとのことだった。とすれば、パターン2のように近傍にCFP値の表示を義務付けた場合には、結局、事業者は参加しないのではないか。
- ・ パターン4が理想だが、せめてパターン3にして欲しい。

【ゼロカーボンの用語】

- ・ カーボンフットプリントでは製品の排出量は「ゼロ」にはならない。誤解を招く恐れがある。
- ・ 「ゼロ」という表記はインパクトが強いため消費者に誤解を与える恐れがある。
- ・ ゼロカーボンとの表記については、「ゼロカーボン住宅」などの言葉もあるため、個人的には

それほどの違和感は感じない。

- ・ エネルギー消費型の製品において「ゼロ」という表記をした場合、シナリオにもとづく一定量しかオフセットされていないにもかかわらず「いくら使ってもCO₂はゼロ」と誤解される恐れがある。

【前回（第6回）議事内容の再確認】

- ・ 前回（第6回）ルール検討委員会での以下の指摘事項に回答するよう、再確認が行われた。

参考資料1 第6回委員会議事要旨（抜粋）

「CFPと国内クレジット制度との連携の在り方研究会の設置について」

- ・ 来年度実施の実施を念頭に置いて議論するのは良いが、実施を前提としないように注意して欲しい。
- ・ CFPに国内クレジットを取り込んで表示となっているが、それが良いのかどうか、そこから議論すべき。ビジネスとしてオフセットするのはかまわないが、CFPの中で「ゼロ」と言ってよいのかどうか。
- ・ ISOではオフセットを算定に含めない方向で議論が進んでいる。我が国のCFP制度としてどうすべきか、考慮しながら議論して欲しい。
- ・ ゼロ・カーボンという言葉は、世界的にみてグリーンウォッシュと見なされるおそれがあり好ましくない。資料から削除する
- ・ クレジット関連の制度は複数あり、複雑なので、専門家の意見も聞きながら、整理しながら議論することが必要。

（3）議題2－①中間財PCR等の引用方法について

- ・ 認定PCRの引用等および検証済みCFPデータの利用に関しては、「認定PCRの引用および検証済みCFPデータの利用について（案）」を基に、運用していくこととする。

以 上